

令和5年度

西祖谷中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の理解を促す授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

- | | |
|------------------|--|
| 学力向上推進員
内田ゆかり | 委員
校長:井手智、 教務主任:井川秀樹
3年担任:内田ゆかり、
特別支援コーディネーター:内田ゆかり |
|------------------|--|

校長

井手 智

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いており、与えられた課題にもまじめに取り組むことができる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書の問題提起やキーワードなどにアンダーラインを入れさせる。 ・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・教員が相互に授業参観を行う。	学力・学習状況調査の結果を踏まえ、定着が不十分だった分野を各教科で確認し、指導に生かせるようにした。	漢検や英検を奨励し、特に英検では目標としていた卒業時全員3級以上取得を達成した。教員同士で生徒たちの授業の様子や学習の定着度などを日々共有し、学力向上に向け全教員で取り組んだ。	次年度休校のため

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えを参考に新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を見いだすことができる。 ・習得、活用、探究の各場面において自分の考えをもち、適切な言語活動により表現することができる。	・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を行う。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。 ・外部講師を招いたり、集会で全教員が話をしたりして、多様な考えに触れさせる。		言語活動において、自分の考えを述べるだけでなく、他者の意見を受けて質問や感想を返すなど、やりとりの時間を設けた。講話や読み聞かせなどを通して多様な生き方や考えに触れ、それに対して自分はどう思うかを問いかけさせることで、考えを深めさせた。	次年度休校のため

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○どの授業にも一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にもまじめに取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、苦手な教科を克服するために、自分で計画を立てて学習したりすることに課題がある。	・学ぶことに興味や関心をもち、各教科の学習に見通しを持って粘り強く取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、各教科等における「令和5年度の重点」を参考に授業改善に取り組む。 ・何をどのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、授業の最後に目標を達成できたか確認させる。		・「何のために学ぶのか」を考えるため、自分の将来設計を立てたり、夢を持って歩んでいる本校の卒業生3人から話を聞いたりする機会を設けた。 ・苦手教科に対しても自分の課題を見つけ取り組む姿勢が生まれ、克服しようと努力する生徒が増えた。	次年度休校のため

令和5年度 学力向上ロードマップ

